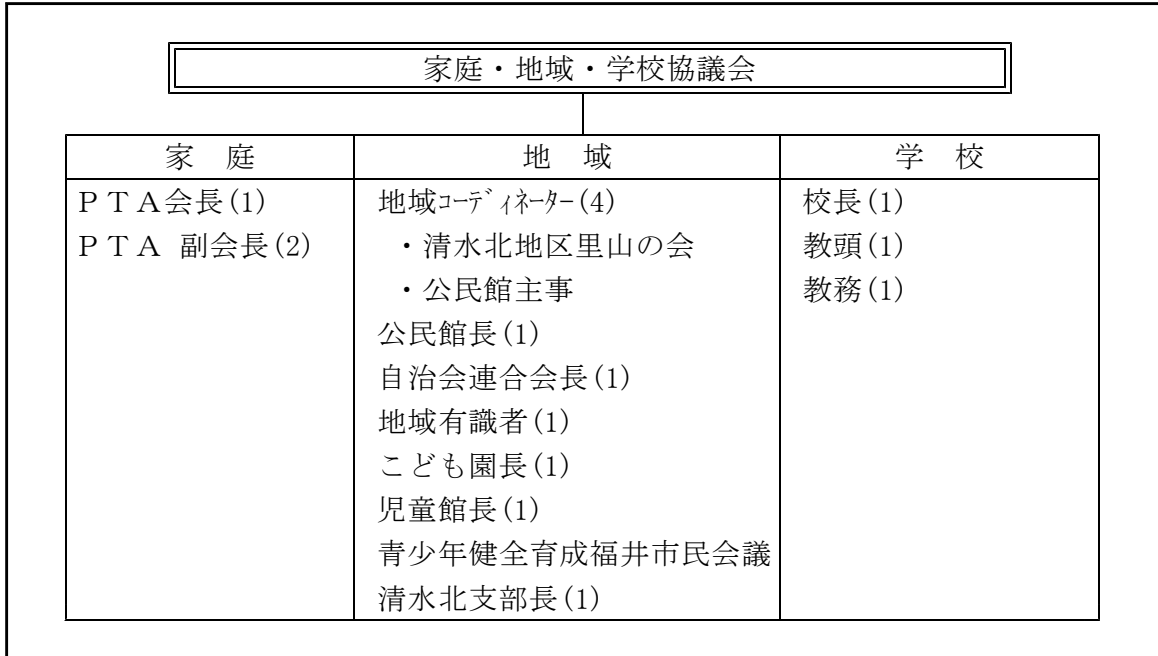


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

※開催回数 3 回

第 1 回 5 月 27 日 (月)

学校教育活動の推進について

(学校経営方針、園小中・公民館・地域・家庭との連携等)

子どもの安全について

(登下校の様子、見守り活動、危険箇所、しみずスマートルール等)

第 2 回 11 月 15 日 (金)

朗読発表会、授業参観

第 3 回 2 月 21 日 (金)

6 年生を送る会参観、学校評価について

登下校時における児童の安全確保について

(3) 協議会における成果と課題

地域の方から登下校の様子、見守り活動、危険箇所、放課後の子供の様子などについて話があり、学校が把握できていないことも理解を進めることができた。「細い路地が抜け道になっていて危険、生活道路の交差点は見通しが悪く危険」などの御意見をお聞きし、1 月より通学路を変更した。さらに下校時の帰宅先について再確認、再点検できた。学校教育に対し理解を進め、協力しながら地域の子供たちを見守り育てていきたいという意欲を感じた。

また、SNS の問題点に対して家庭、学校、地域の三者が共有して対応しなければならないことを確認した。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童が、地域の地理や歴史、自然などに親しむ中で、課題を見つけ主体的に追究する活動を地域の方々と共に進めることで、地域に愛着をもち、地域のために役立ちたいと思う子どもを育成する。

(2) 活動の実際

① 米作りの体験活動（5年生）

5年生は、校区の生産組合（片粕ファーム）の方と公民館の福井学事業「農業体験学習」の協力を得て、社会科で学んだことを米作り体験という形で実践した。田植えや案山子作り、稲刈り、脱穀など全て手作業で体験し、昔の米作りの苦勞を感じ取った。またその都度、最新の農業技術についても説明を受け理解を深めた。さらに、収穫した米の使い道を児童が話し合い、家庭科でご飯を炊きお世話になった方と会食をした。給食にも収穫した米を提供し全校児童が味わった。余った米は、各家庭へ持ち帰り、家族で食べながら米作りの苦勞について話し合う機会を設けた。最後に、米作りの一連の体験活動を活動のスライドや模造紙にまとめ、5年生が発表する場を設けた。



米作り体験の発表のようす

② 里山での体験活動（3年生）

3年生は、清水北地区里山の会講師を招いて学校の裏山を探索し、木の種類、葉や花の特徴、ドングリがどのように芽を出しているかなどについて観察した。その後、スギの間伐材をノコギリで切る体験をして里山への理解を深めた。秋には講師と一緒に里山に入り、ドングリの種類の説明を聞きながら、ドングリを拾った。拾ってきたドングリを児童一人一人が鉢に植えた。苗は、6年時に里山に移植するまで2年間大切に育てる。



丸太切り体験のようす

(3) 地域コーディネーターの活動概要

公民館職員の2名を中心に、役割分担をしながら、諸活動のスケジュール調整やボランティアの募集、活動計画の立案など積極的に活動していただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・地域の団体（農業法人片粕ファーム、清水北地区里山の会など）と連携を深めることで、児童が主体的な体験活動ができるようにした。
- ・体験活動を通して学んだことや成果をまとめ、発表する場を設けた。

(5) 成果と課題

児童が、地域の地理や歴史、自然などとさまざまな体験活動を地域の方々と共に進めることで、地域に誇りをもち、愛着をもつようになってきている。今後は、伝統を継承したい、地域のために役立ちたいと思う心情を育成することをねらいとした活動に取り組んでいきたい。